

Sustainability Management

サステナビリティマネジメント

パイオラックスグループ サステナビリティ方針

パイオラックスグループは、パーパスに掲げる「人と社会を技術でつなぎ、心弾む未来を実現する」に基づき、ESG経営の実践を通じて、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に取り組んできました。

気候変動への対応や人権尊重などのESG経営への取り組みが重要な経営課題である状況を踏まえ、サステナビリティに関する方針を定め、各種取り組みを加速していきます。

パイオラックスグループ サステナビリティ方針

私たちパイオラックスグループは、パーパスに掲げる「人と社会を技術でつなぎ、心弾む未来を実現する」に基づき、しなやかな発想のものづくりで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

1. 開発型企業として、事業を通じて気候変動問題をはじめとする社会的な課題の解決に取り組めます。
2. グローバル企業として、国際ルール、法令を遵守すると共に、公正目つ透明性の高い経営を実現します。
3. 従業員の個性や多様性を尊重し、安全に安心して働ける職場環境づくりを目指します。
4. ステークホルダーとの関係を大切に、責任ある対話を行い、信頼関係を構築します。
5. 経営トップは本方針の精神の実現に向け、実効性のあるガバナンス体制を構築し、グループ各社への周知徹底に努めます。

2021年12月制定

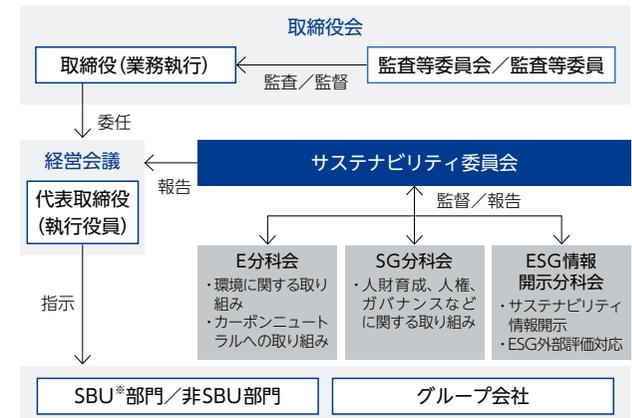
2024年10月改訂

ガバナンス

当社では、サステナビリティ課題について審議するための機関として、「サステナビリティ委員会」を2021年12月に設立しました。サステナビリティ委員会は代表取締役社長を委員長とし、委員は取締役を中心に構成し、年に4回開催しています。

サステナビリティ委員会は、当社が直面する可能性があるリスクと機会を委員会・分科会活動において抽出し、マテリアリティやポートフォリオの見直しと持続可能な経営目標を審議します。サステナビリティ委員会で審議した後、経営会議で経営戦略との関係性や整合性を協議し、最終的に取締役会で決定します。代表取締役社長は、経営会議での協議に参加するとともに、取締役会で決定した施策をグループ全体に対して執行します。

サステナビリティ推進体制図



※SBU：Strategic Business Unit (戦略的ビジネスユニット)

サステナビリティマネジメント

戦略

PIOLAX ESG Vision 2030

当社ではサステナビリティ課題の解決に向け、2030年に向けたビジョン「PIOLAX ESG Vision 2030」を掲げ、重点方策を定め、KPIに落とし込んで活動を継続しています。ESG経営は、持続可能な社会の実現に向けて企業責任を果たすために必要であるとともに、当社の成長につながる重要な戦略でもあり、中長期的な視点で着実に実行していきます。

マテリアリティ・マトリックス



マテリアリティ

●マテリアリティ特定プロセス

当社は取り組むべき課題を、当社グループとステークホルダーの2つの視点から整理しました。課題整理には「マテリアリティ・マトリックス」を使用し、課題の重要性と位置付けを明確にしました。

以下のプロセスに沿って、課題を抽出しました。

STEP1 社会課題の抽出

サステナビリティ委員会において、GRIスタンダードにも反映されているトリプルボトムライン(環境・社会・経済)の側面34項目を参考に、パイオラックスグループを取り巻く社会課題と、ステークホルダーが当グループを評価する際に重視する社会課題について抽出しました。

STEP2 優先順位付け

STEP1で抽出した課題について、以下の内容に沿って優先順位を付けました。

- ステークホルダーの期待について、大きく以下3項目に沿って抽出
 - GRIスタンダード要求事項
 - 顧客要求事項
 - 一般(株主・社員・地域社会など)要求事項
- パイオラックスグループの重要性について、大きく以下3項目に沿って抽出
 - グループ方針：事業方針、行動規範、環境方針など
 - 社内活動：協議会(営業・生産・品質・設計・管理)活動、全社環境活動など
 - 法的要求：環境、雇用安全、政策、東京証券取引所所有価証券上場規程など

STEP3 妥当性の確認

STEP2で特定した課題について、経営会議でパイオラックスグループの中期経営計画、経営戦略なども踏まえて妥当性を確認し、取締役会で承認しました。特定された重要課題は各部門の事業計画に織り込まれ、それぞれの活動につながられています。

サステナビリティマネジメント

パイオラックスグループのマテリアリティ

	マテリアリティ	PIOLAX ESG Vision 2030	マテリアリティ (重点活動項目)	参照 ページ	関連する主なSDGs
E 環境	エネルギー 大気への排出 廃棄物	脱炭素社会と循環型社会を 目指した企業活動	省エネへの徹底した取り組み	P.36	
			廃棄物削減への取り組み	P.37	
			資源の有効活用	P.37	
S 社会	雇用 労働安全衛生 多様性・機会均等	安心して働ける活気ある 職場づくり	健康経営の推進	P.51	
			ワークライフバランス	P.49	
			ダイバーシティ	P.48	
			人財育成	P.45	
			人権の尊重	P.40	
	公正・公平な取引と 信頼関係の向上	CSR調達の向上	P.42		
G ガバナンス	ガバナンス コンプライアンス	ガバナンス強化による 安定した組織運営	コーポレートガバナンス	P.62	
			リスクマネジメント	P.66	

リスク管理

サステナビリティ委員会において、さまざまなリスクと機会に対する全社統合的なマネジメントを実施しています。当社グループの事業活動に影響を与えうるリスクと機会を特定し、重要性の評価に応じた対応計画を策定して、進捗状況をモニタリングしています。



サステナビリティマネジメント

指標と目標・実績

当社は、2030年度に向けたESGビジョン「PIOLAX ESG Vision 2030」に基づいて2023年度の目標を設定し、活動を実施しました。未達成となった項目は、2024年度ESG活動目標および第8期環境中期目標に反映させ、継続して取り組みを進めていきます。

ESG活動目標

マテリアリティ	重点活動項目	KPI	2023年度 目標	2023年度 実績		2024年度 目標	
エネルギー 大気への排出 廃棄物	省エネへの徹底した取り組み カーボンニュートラルに向けた活動	間接消費エネルギー (電気)	温室効果ガス： CO ₂ 排出量の削減	13%削減(2019年度比)	38%削減	○	17%削減(2019年度比)
			原単位当たりの エネルギー消費量削減	1%削減(2022年度比)	3.2%削減	○	2%削減(2022年度比)
	廃棄物削減への取り組み	原単位当たりの総廃棄物排出量削減	2%削減(2022年度比)	0.3%増加	×	4%削減(2022年度比)	
	資源の有効活用	リサイクル率の向上	80%(2022年度比)	81%	○	80%(2022年度比)	
雇用 労働安全衛生 多様性・機会均等	健康経営の推進	従業員エンゲージメントのスコア化	スコア化検討	コンディションサーベイ実施	○	指標の選定	
	ワークライフバランス	時間外労働の削減		10%削減(前年度比)	17%増加	×	10%削減(前年度比)
		有休取得率の向上		60%	71%	○	前年度実績以上
		女性育児休業取得率		100%	100%	○	100%
		男性育児休業取得率		前年度実績以上	60%	○	前年度実績以上
		重大災害件数		0件	0件	○	0件
	ダイバーシティ	女性管理職比率		5%以上	5.2%	○	前年度実績以上
		女性新卒採用比率		30%以上	22.7%	×	前年度実績以上
		外国籍採用数		2名以上	1名	×	前年度実績以上
		障がい者雇用率		2.3%以上	2.34%	○	法定(2.50%)以上

対象範囲：CO₂排出量の削減はパイオラックスグループ、原単位当たりのエネルギー消費量削減・原単位当たりの廃棄物削減・リサイクル率の向上はパイオラックス+国内グループ会社、そのほかはパイオラックス単体



サステナビリティマネジメント

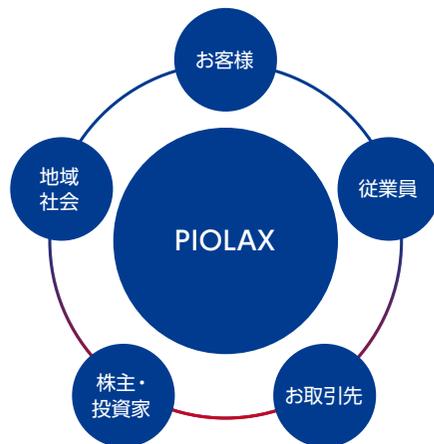
マテリアリティ	重点活動項目	KPI	2023年度 目標	2023年度 実績		2024年度 目標
雇用 労働安全衛生 多様性・機会均等	人財育成	人財育成向上	教育体制整備／質向上	階層別教育拡充	○	着実な遂行
	人権の尊重	パイオラックス人権方針の教育実施	実施	実施	○	実施
		ハラスメント防止教育の実施	実施	85%	○	実施
	CSR調達の向上	取引先CSR遵守状況の確認 (CSRガイドライン合意書回収率)	100%	100%	○	100%
		取引先ESG経営推進サポート	活動調査の実施	100%	○	活動調査の実施
		紛争鉱物問題への対応(調査回収率)	95%以上	90%	×	95%以上
ガバナンス コンプライアンス	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンス・コード対応	CGコード対応の強化	全原則遵守(コンプライ)の継続	○	CGコード対応の強化
		ステークホルダー・エンゲージメントの強化	適時開示の実施	実施	○	適時開示の実施
		コンプライアンス体制の強化	社内教育実施	実施 1,456名、延べ364時間	○	社内教育実施
	リスクマネジメント	情報セキュリティの強化	メール訓練実施、 EDRシステム活用拡大	実施	○	メール訓練実施、 EDRシステム活用拡大
		災害対策の体制整備	マニュアルの整備	実施	○	マニュアルの整備

対象範囲：コンプライアンス体制の強化はパイオラックスグループ、そのほかはパイオラックス単体

サステナビリティマネジメント

ステークホルダー・エンゲージメント

当社は多種多様なステークホルダーの要請や期待に応えるため、「ステークホルダーとの対話」を重視し、信頼の構築を目指しています。ステークホルダーを通じて認識した課題を目標の策定や活動内容につなげ、企業価値向上に努めていきます。



ステークホルダー	当社が担う責任・課題	主な対話・手段
お客様	パートナーシップ向上による安心、安全で信頼性のある商品の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の営業活動 ● 品質保証のサポート ● 工場見学 ● 技術の共創活動
従業員	従業員が能力と個性を發揮できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 人財育成・人事評価 ● ダイバーシティの推進 ● 労使協議会 ● 安全衛生 ● 改善活動や発明へのインセンティブ(グローバル小集団大会、新商品新技術報告会) ● 内部通報制度 ● ストレスチェック ● 経営トップメッセージの定期発信 ● 経営トップによる生産現場巡視
お取引先	公正・公平な取引と信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問による情報交換 ● 表彰制度 ● 購買方針説明会
株主・投資家	企業価値の向上と適切な情報開示	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主総会 ● 決算説明会 ● 各種取材 ● Web サイト ● 株主アンケート
地域社会	地域社会発展への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ボランティア ● 近隣小学校向け工場見学会 ● 業界団体への参加 ● 学生向け会社説明会とインターンシップの受け入れ

外部評価(社外からの評価)

CDP評価

国際非営利団体CDPが実施する2023年度調査において、「気候変動B」、「水セキュリティC」評価を取得しました。今後も環境問題への取り組みを強化し、さらに上位のスコア取得を目指していきます。



[CDP https://japan.cdp.net/](https://japan.cdp.net/)

ESG投資インデックスに継続選定

グローバルインデックスプロバイダーである FTSE Russell が構築した「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に、3年連続で選定されました。



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

[FTSE Blossom Japan Sector Relative Index https://www.lseg.com/ja/ftse-russell/indices/blossom-japan](https://www.lseg.com/ja/ftse-russell/indices/blossom-japan)

「健康経営優良法人2023」に認定

経済産業省と日本健康会議が共催する健康経営優良法人認定制度において、従業員の健康管理を経営的な視点で考え戦略的に取り組む法人として、「健康経営優良法人2023」の大規模法人部門に認定されました。

